



14 松前家御霊屋内の天井に描かれた花鳥画(法幢寺)
15 法源寺経堂の欄間に施された竜の彫刻

免れた山門の造形美や装飾の見事な技に歴史の重みがかがえる。
繁栄の中心は、その後函館や札幌へと移っていくが、史跡・文化財がいまも残る城下の風情や、参道の大樹一本にさえ、往時を偲ぶ歴史の息吹が感じられる。春の桜は有名だが、秋の景色もなかなか美しい。

歴史と文化が薫る城下町

天守閣を誇る日本最後の城

松前城

日本最北の藩、松前藩。その居城であった松前城は、天守閣を誇る城としては日本で最後に建てられたものである。安政元年(一八五四年)、十七世松前崇広によって築城され、北方警備の必要を幕府に命じられての備えであった。設計は兵学者の市川一学。

しかし、この城は箱館戦争(戊辰戦争)で、新撰組副長の土方歳三率いる旧幕府軍の攻撃によってあつげなく落城した。その時の砲弾のあとがいまも石垣に残されている。

その後、明治四年(一八七一年)



重要文化財指定の本丸御門(手前)と鉄筋コンクリート造で再建された天守閣



本丸表御殿玄関(道有形文化財指定)の欄間彫刻

● 開館時間：9時～17時(4月～12月)
● 入館料：大人 350円・小人 230円

松前藩屋敷

城下の繁栄を再現したテーマパーク

「松前の春は江戸にもない」と言われるほどの繁栄を謳歌した松前城下。幕末には三万人の人が暮らしたという城下町の賑わいを再現したテーマパークが「松前藩屋敷」だ。

ここに再現された建物は十四棟。蝦夷地に出入りするあらゆる物や人から税を徴収したという海の関所「沖の口奉行所」や、北前船の交易で財を築いた「商家」、藩士の屋敷を再現した「武家屋敷」などなど、まるで江戸時代にタイムスリップしたかのようなリアルな世界が体感できる。

武家屋敷などは、靴を脱いで屋敷内までも見学することができ、当時の暮らしが垣間見えて楽しめる。また、「廻船問屋土蔵」には実際の北前船を十分の一に縮小したレプリカも展示されている。



「廻船問屋土蔵」に展示された北前船のレプリカ

道内では松前にしかない白花タンポポ



北前船の交易で莫大な財を築いた実在の商家「近江屋」を再現



● 開館時間：9時～17時(4月上旬～11月上旬)
● 入館料：大人 350円・小人 230円

